

2024年度 第17回全日本ユース(U16)水球競技選手権大会【桃太郎カップ】【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2024/12/27】

**女子決勝戦**

京都府選抜 21

5	—	2
8	—	2
6	—	2
2	—	9

15 富山県選抜

PSO

中村 友美

審判：

宇田川 佑里子

この試合のプレー集計

京都府選抜	33	SH数	36	富山県選抜
	6	速攻数	1	
	11	ST・SB	11	
	9	SH・P誘発アシスト	8	
	38%	GK阻止率	13%	
12	EX反則数	8		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

ここ数年間、女子ジュニア水球界の「2強」時代で競い合ってきた両チーム。今大会3連覇中の京都府選抜であるが、実は2年前の第15回大会の2回戦での戦いが富山の真骨頂。[動画HP](https://momotaro-wp.xyz/2022momotaro-wp/W08_Mov.html) ([https://momotaro-wp.xyz/2022momotaro-wp/W08\\_Mov.html](https://momotaro-wp.xyz/2022momotaro-wp/W08_Mov.html))。中盤からのプレスディフェンスで京都側に自由にボールを回させない展開がこの決勝戦でもできるのであれば、京都の4連覇阻止も十分可能であろう。勝負の分岐点は、富山が勇気をもってプレスディフェンスを貫けるか。【上の[動画HP](#)をクリックするとWebに飛びます】

1P

京都は中学生メンバー主体で試合スタート。エース②大前はベンチ。富山は開始早々のディフェンスで退水を取られそこで失点。このプレーで前に出るディフェンスができなくなってしまい、プレッシャーのない状況で京都に3連続得点を許してしまった。ディフェンスだけでなく、マイボールになってからの攻撃も前に出ることができずに、京都にボールを奪われてしまう形での連続失点が非常に痛かった。ピリオド序盤で一気に京都が5得点をあげ、富山側が委縮してしまう展開となってしまった(京都5-2富山)。

2P

ここから②大前が登場すると、京都の攻撃エンジンが全開。ピリオド開始直後のセンターシュートを決めると、このピリオド4得点。富山も第1ピリオドよりも果敢に攻撃するようになり、退水攻撃に至るなどシュートも京都に負けない9本打つが(京都は10本)、京都GK⑬飯川に5本もセーブされ、そこからすべて失点してしまう形で点差をどんどん広げられてしまった。京都13-4富山と大きく京都がリードして前半を折り返したが、富山らしいプレスディフェンスは影を潜めたままで、この攻撃的なディフェンスが展開されない限り、さらに点差が広がっていく様相であった。

3P

このピリオドもセンタボールからの京都攻撃を富山が止めることができず、14点目を京都がマーク。その後も、前ピリオド同様、やや無理な状況からの富山側のシュートを容易に京都GK⑬飯川がセーブして京都が連続加点。一気に京都18-4富山にまで点差を広げた。その後、富山は②山下と③山下が決めて、京都19-6富山で第3ピリオド終了。

4P

京都は第3ピリオド後半からGK①小笹に交代させ、このピリオドもスタートからGK①小笹が位置についた。このピリオドのセンタボールは富山⑥長門が取ると、そのまま左サイドから②山下が決めて富山が7点目をマーク。そうってから富山が一気に得意のプレスディフェンス。京都はこの攻撃的なディフェンスに面を食らったように防戦一方となり、ほとんど攻撃らしい攻撃ができずにボールが富山へ。そこを②山下や⑥長門が次々に突いて得点を重ねて、このピリオド、あっという間に連続7得点。京都のGK交代の隙も突いた形ではあったが、遅まきながらのプレスディフェンスが有効であることを証明した。第3ピリオドまでの失点が多すぎたため、富山は追いつくことはできなかったが、自分たちの「形」を示すことができたのは次につながるであろう。最後、京都のエース②大前が2点を決め、最終的には京都21-15富山ということで、京都が本大会史上初の4連覇を達成した。

4連覇の京都は圧倒的な攻撃力が特徴である。この4年間の決勝戦スコアを付記しておく。

大会	優勝			準優勝
第14回	京都府選抜	22	—	16 千葉県選抜
第15回	京都府選抜	15	—	11 山口水球クラブ
第16回	京都府選抜	17	—	13 富山県選抜
第17回	京都府選抜	21	—	15 富山県選抜
過去の女子決勝戦平均		15.8	—	9.6